

第 46 回公害紛争処理連絡協議会から

「悪臭公害の特徴と問題点」

前・公益社団法人におい・かおり環境協会会長 岩崎 好陽

今年3月まで、におい・かおり環境協会におりました岩崎です。よろしくお願いいたします。

まず、悪臭公害というのは、感覚公害であり、測定法が確立しておらず、研究という面でも非常に苦労した公害でありました。そのため、誤解も多く、なかなか理解されなかった公害でもありました。

この図（資料3 p.1）は、悪臭公害、騒音公害、振動公害の経年別の推移であります。これを見るとわかるように、振動公害に比べ、騒音公害と悪臭公害は、抜いたり抜かれたりしているところがあるけれども、かなりの数の苦情件数となっております。

騒音公害では、最近、驚くような事件がありました。アパートの2階のおばあちゃんの部屋に、おばあちゃんの娘と孫娘が訪ねてきたら、下に住んでいた男が「うるさい」ということで子供を殺害したケースがありました。ところが、悪臭公害は、殺害事件になったことはありません。一体これは何だろうと。

被害の感覚として、悪臭公害には快・不快の表示というのがあります。一番最悪なものでも「過激に臭い」、これが悪臭の一番最高の悪い評価です。騒音公害では「殺したいほど苦しい」、そういう表示ができるのか。この前、日本騒音制御工学会の人とお話して、「検討しようよ」と提案したところです。

苦情の内容（資料3 p.2）は、実際、甘いにおいでも快いにおいでも、悪臭苦情は生じてくる。それは騒音苦情も悪臭苦情も同じです。要するに、ほうじ茶のにおい、コーヒー焙煎のにおい、チューインガムのにおい、製パンのにおい、そういうものでも悪臭苦情は生じます。コーヒー焙煎でも年に20件あると思います。

悪臭苦情の解決（資料3 p.3）についてですが、苦情の内容をじっくり聞いていくと、意外と思われるかもしれませんが、悪臭の苦情では、騒音苦情と一緒にすることが実際にあります。意外に多いのです。例えば、ラーメン屋が家の前や隣に建つ、においも確かににおうけれども、ラーメン屋の駐車場の騒音だとか駐車違反や自転車の駐輪だとか、そういうことで迷惑をかけているのに、きちんとさばかないので不満がたまってくる。ラーメン屋の実際のにおいで憎いのではなくても、苦情者が「坊主憎けりや袈裟まで憎し」で、

においの不満まで言ってくる。ひいては、悪臭防止法の方がやりやすいとか、いろいろな知恵をつけてくる人がいる場合もある。悪臭は全事業所対象ですから、事業をやられている方は近隣と仲よくしていく必要があるのではないかと考えています。

悪臭防止法の基本的な考え方（資料 3 p.4）ですけれども、悪臭は有害ガスとどう違うのか、有害ガスよりも影響が出るのではないか。腐卵臭を持つ硫化水素は健康に影響があるのではないか、ということで硫化水素は有害ガスに規定がありますので、有害ガスとして別に規制されます。

悪臭の一番の苦勞は、騒音は何デシベルあって、騒音違反ですよというふうに言えば、ある程度納得してくれますけれども、においの臭気濃度はなかなか信用してくれない。特に、日本は嗅覚測定法というにおいの測定法で、なかなか嗅覚といっても信じない人もいる。現在、市はまだ機器測定法によってするものが多いですが、全国で数百の事業所では、だいぶ信用が置かれるようになったので、嗅覚測定法になっています。

この図（資料 3 p.5）は、悪臭防止法の規制の考え方で、河川水、排水口のところ、それから煙突から出る煙、それから敷地境界、3箇所で基準が決まっています。

この写真（資料 3 p.6）は、人間がにおいをかいで測っている方法（嗅覚測定法）と機械で測っている方法（機器測定法）のものであります。世界中で、においを測るのは人間が行っています。今、におい物質は機械では測れません。

世界中には40万という化学物質があります（資料 3 p.7）。においのある化学物質は、当然においを放っている。そういう物質が必然的に混じりますから、実際に1個1個測らないとわからないわけです。機器測定法では、機械で10種類を測るのが限界です。

次の写真（資料 3 p.8）は、嗅覚測定法では、人間が袋のにおいを吸って、清浄な空気ですべて薄めていき、それで何倍に薄まるまで測ろうという考え方です。ヨーロッパも同じです。日本では三点比較臭袋法、ヨーロッパではセントメーターです。これは、世界で客観性のある測定法と言われています。騒音計みたいに周波数補正ができて測れるといいのですが、なかなかそうはいきません。

臭気濃度1,000というのは、無臭の空気ですべて1,000倍に薄めたときに消えるにおいを臭気濃度1,000と言います。大体、排出口の煙突の基準というのはこれに近いです。

三点比較式臭袋法では、三点比較式臭袋のオペレーターに資格を与えています（資料 3 p.9～p.10）。これは国家資格で、臭気判定士（臭気測定業務従事者）であります。試験は、1年に1回、合格率が大体30%ぐらいです。今、全国で3,000人ぐらいいます。

私が全国を回っていて、公害対策の指導に多少成功している事例を簡単にご紹介します。それはどういうことかということ、余り多額の経費を掛けないで、解決策を見せてあげるといことです。そんなのないだろうと。対策費用はお金が掛かるので、それはなかなか難しい。それは一般論であって、もし経費が掛からなければ、対象事業所も拒否しないで受け入れてくれると思います。

この写真（資料3 p.11）は、ドライラミネートです。例えば、経費が掛からないで、かえって経費が得する、そんな対策があれば、工場側は喜んでやります。このドライラミネートの場合は、作液の前にビニールカバーを敷いてやる。インキパンもそうです。それだけでも1年間、何百万円と浮くグラビア印刷があります。それから、溶剤の容器にふたを閉めるだけでも全然違います。

この絵（資料3 p.12）は、汚泥処理の活性汚泥法のエアレーション、これは畜産に応用できます。下水道の場合、汚泥を透過するとき、通常、空気の水を入れてやっている。畜産の場合は、もったいない。空気かわりに、例えば、悪臭を入れてあげればいい。近代的な清掃工場は皆、燃やす燃焼空気は、ごみキットの空気を燃料にしています。あれをFD Fで引っ張って、加熱して、それで炉炎に入れています。燃焼活用です。

この絵（資料3 p.13）のように、煙突は、近隣の建物の高さより上に上げる。もうそれでいい。よく、上場企業の煙突の形を見ると、みんな下に向いている、横に向いている。こんなのは意味がない。

この絵（資料3 p.14）のように、煙突は真上に向いているのが一番いいんです。横もだめ、下もだめ、T字型もだめ、陣笠もだめ。煙突を真上に向けるだけで悪臭問題は解決できるのです。聞いてみると、皆さん方は、雨が心配という。雨なんかは、絵の右側にあるように、煙突の下側に1センチの穴でも空けておけば解決です。

畜産のネックは、畜産環境整備機構も言っているように、堆肥のにおいによって大きな悪臭が出ます。昔ほど野積みにはしておくことはない（資料3 p.15）と思いますけれども、できるだけ攪拌をはじめ、吸引通気式とかの対策を行っていく。そういうことをすれば、経費的にも得してくると思います。

今日、お話ししたお金のかからない対策というのは、今度出ました機関誌「ちょうせい（5月号）」に、もう少し長く十分に書かせていただきましたので、ご参照ください。

このようなことを、これからの参考にさせていただいて、ぜひ、いい対策を見つけていただきたいと思います。

それでは、これで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。